

I 自己評価

| | | | |
|--------------------|---|--|--|
| <p>1 学校教育目標</p> | <p>(1) 職員と生徒が一体となり、あらゆる教育活動を通して、質実剛健・明朗闊達な校風を樹立します。 (2) 望ましい職業観を育成するとともに、誠実・勤勉で人間性豊かな産業人を育成します。 (3) 普通教育と商業に関する専門教育との調和のとれた指導を通して、生涯にわたって、創意をはたらかせ、進歩向上を図るための基礎的能力を育成します。</p> | | |
| <p>2 スクール・ポリシー</p> | <p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「豊かな心をもつ土岐商生」 自分で考え行動しながら心にゆとりと自信をもち、他人を思いやり友人を大切に、人間関係を充実させる生徒 ・「志が高い土岐商生」 学習、特別活動、進路選択において勤勉さと逞しさをもって失敗を恐れず挑戦し、自らが決めた目標を貫ける生徒 ・「地域とのつながりを大切にする土岐商生」 商業に関する専門性を活かしながら地域とつながり、卒業後は即戦力のある人財として、地元や社会への貢献をめざす生徒 | <p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本となる学力の定着を図るための普通教育とICTを活用しながらコミュニケーション能力と発信力を育成する専門教育 ・高度な資格取得を目標とし、学科・コースを自ら選択した上で取り組む専門的な学習 ・地域を含む外部との連携で、実社会の課題を知り、できることを考え実行していく機会を体験する「探究的な学び」 | <p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の校風と商業に関する専門的な学習や部活動に関心があり学びたい生徒 ・高校生活にしっかりとした目標を持ち、積極的に取り組み、挑戦したいという意欲のある生徒 ・地域と関わる機会があれば自ら進んで参加し、校内では共同・協働の機会である部活動や生徒会活動を通じて、より良い社会の礎となるために考えて行動できる生徒 |

| | | |
|---|---|--|
| <p>3 評価する領域・分野</p> | <p>◇教務部【教育課程、学習指導、評価基準】</p> | |
| <p>4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「ICTを活用した授業内容についての理解度」の肯定的回答（生徒）が78.1%となっている。ICT機器を効果的に活用し、授業の実践と生徒理解の向上に努めたい。 ・「家庭学習の習慣」「商業教育への取組」に対する認識に、生徒と保護者の間で大きなずれがみられる。家庭と学校の連携を密にし、本校の教育環境について、保護者にもご理解いただきたい。 | |
| <p>5 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p> | <p>◇基礎基本の力の定着 「確かな学力」 「粘り強さ」</p> | |
| <p>6 重点目標を達成するための校内における組織体制</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・各種学校行事を他分掌と連携して円滑に運営し、生徒が落ち着いて学べる環境をつくる。 ・コース、科目選択について、学年や他分掌と連携して生徒の適性に最大限マッチさせる。 ・各教科間でデジタルコンテンツの共有化を図る。 | |
| <p>7 目標の達成に必要な具体的な取組</p> | <p>8 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p> | |
| <p>(1) 「観点別学習状況評価」を踏まえた「指導と評価の年間計画」の作成 (2) ICTの効果的な運用 (3) 個々の能力に応じた学習支援 (4) 文章の読解力や語彙力を高める</p> | <p>(1) 生徒及び保護者等対象アンケートの「評価に対して適切だと思う」が85%以上を目指す。 (2) 生徒及び保護者等対象アンケートの「ICTを活用した授業内容についての理解度」の肯定的回答が85%以上を目指す。</p> | |

| | | |
|---|---|-------------------------------|
| | (3) 生徒及び保護者等対象アンケートの「個に応じた指導を行っている」の肯定的回答が85%以上を目指す。 (4) 図書館の利用状況や作文模試により評価し、貸出率10%増を目指す。 | |
| 9 取組状況・実践内容等 | 10 評価視点 | 11 評価 |
| <ul style="list-style-type: none"> 定期考査期間中（年4回）における学習状況調査を実施した。 授業研究週間を設定し、授業研究、生徒アンケートによる授業改善を行った。 朝読書（年2回）やコラム書き写しを通じて、文章の読解力や語彙力を高めさせた。 | ①「学習状況調査票」の総括、素点との関連性 ②授業参観の記録、アンケート結果 ③課題提出状況、作文模試評価 | A B C D A B C D A B C D |
| 12 成果・課題 | ○家庭学習習慣化のために学習状況調査を実施した。クラス平均でみると、学習時間と素点が比例していることが分かった。 ○授業研究週間にICT機器を活用した公開授業を実施した。引き続きICT機器の効果的な活用方法の研究が必要である。 ▲生徒用タブレットの使用頻度が上がる一方、故障等も増えてきている。備品管理の意識を徹底させたい。 | 総合評価 A B C D |
| 13 | 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> 知識、技能の定着のため、継続的に課す課題提示と進捗を確認し、必要に応じたオンライン対応により、個々の能力に応じた学習支援を実施する。 新教育課程による「観点別学習状況評価」が3年目となる。ABCの総括方法、評定の算出方法を各教科で分析し、学校全体としての指標作りの参考とする。 職員会議資料をデジタルデータで提供し、ペーパーレス化を実現した。ICTの効果的な運用を業務の上でも更に推進していきたい。 | |

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月18日

| |
|--|
| 【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> 生徒がパソコンやスマホを有効活用している様子がうかがえた。ICT活用能力は社会に出てからも非常に重要な力になる。今後も継続的に指導してほしい。 AIなどが普及しているが、最終的には人が操作するものである。そのために必要な資質を、積極的な地域連携、伝統やチャレンジを盛り込んだ学校行事に取り組むことで涵養していただきたい。 |
|--|

I 自己評価

| | | | |
|--------------------|---|--|--|
| <p>1 学校教育目標</p> | <p>(1) 職員と生徒が一体となり、あらゆる教育活動を通して、質実剛健・明朗闊達な校風を樹立します。 (2) 望ましい職業観を育成するとともに、誠実・勤勉で人間性豊かな産業人を育成します。 (3) 普通教育と商業に関する専門教育との調和のとれた指導を通して、生涯にわたって、創意をはたらかせ、進歩向上を図るための基礎的能力を育成します。</p> | | |
| <p>2 スクール・ポリシー</p> | <p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「豊かな心をもつ土岐商生」 自分で考え行動しながら心にゆとりと自信をもち、他人を思いやり友人を大切に、人間関係を充実させる生徒 ・「志が高い土岐商生」 学習、特別活動、進路選択において勤勉さと逞しさをもって失敗を恐れず挑戦し、自らが決めた目標を貫ける生徒 ・「地域とのつながりを大切にする土岐商生」 商業に関する専門性を活かしながら地域とつながり、卒業後は即戦力のある人財として、地元や社会への貢献をめざす生徒 | <p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本となる学力の定着を図るための普通教育とICTを活用しながらコミュニケーション能力と発信力を育成する専門教育 ・高度な資格取得を目標とし、学科・コースを自ら選択した上で取り組む専門的な学習 ・地域を含む外部との連携で、実社会の課題を知り、できることを考え実行していく機会を体験する「探究的な学習」 | <p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の校風と商業に関する専門的な学習や部活動に関心があり学びたい生徒 ・高校生活にしっかりとした目標を持ち、積極的に取り組み、挑戦したいという意欲のある生徒 ・地域と関わる機会があれば自ら進んで参加し、校内では共同・協働の機会である部活動や生徒会活動を通じて、より良い社会の礎となるために考えて行動できる生徒 |

| | | |
|--|---|--|
| <p>3 評価する領域・分野</p> | <p>◇生徒指導部【生徒指導、教育相談、特別活動】</p> | |
| <p>4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の醸成については、生徒、保護者についても概ね理解を得て、各種取り組みを実施できている。 ・全校生徒に対していじめに対する学校としての姿勢を定期的に示す必要がある。 ・各種取り組みについて、保護者に認識されていないことが多い。 | |
| <p>5 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p> | <p>◇【生徒指導】基本的な生活習慣を確立し生徒の規範意識の高揚をはかる ◇【特別活動】特別活動を通じて所属意識を高め母校愛を育む</p> | |
| <p>6 重点目標を達成するための校内における組織体制</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部内に【生徒指導課】【特別活動課】【教育相談課】の3つの課を配置し、各教員が主たる担当を持ちながら互いを補完する体制をとっている。 ・情報共有を基本とし、学年部や他分掌と連携を深めながら事案に対応している。 | |
| <p>7 目標の達成に必要な具体的な取組</p> | <p>8 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p> | |
| <p>(1) 社会人に求められるマナーを基本とした、積極的な生徒指導の実施 (2) 生徒会活動、部活動の活性化</p> | <p>(1) 各種アンケートの実施及び外部評価（遅刻ゼロ、いじめゼロ、交通事故ゼロ等） (2) 生徒会活動→行事ごとのアンケート 部活動 →各種大会での上位入賞</p> | |

| 9 取組状況・実践内容等 | 10 評価視点 | 11 評価 |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・登校時あいさつ活動（学年部と連携、毎日） ・隔月実施の身だしなみ指導（一斉指導年5回） ・いじめに関する意識向上アンケート実施 ・教育相談に係るアンケート、調査の実施 ・MSLなど生徒の自己啓発活動の推進（あいさつ、交通安全意識の醸成） ・生徒会行事実施及び活動評価 ・部活動成績及び活動状況 | <p>①内容、回数ともに十分であったか</p> <p>②生徒の学校生活に対する意識は向上したか</p> <p>③各種取り組みに関して、保護者の認識が高まる取り組みだったか</p> | <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> |
| <p>12 成果 ・課題</p> | <p>○本校の実態に沿った指導が生徒の規範意識向上に繋がっていると考えられる。あいさつ、身だしなみ、時間厳守については成果が出ている。</p> <p>○各分掌、担任、学年、管理職と生徒の情報を共有することができている。週に1回、教育相談担会議を実施し対応できている。</p> <p>▲生徒の悩みを早期に発見し対応することはできているが、悩みの内容が複雑化しており、その後の対応に苦慮する事案が多い。</p> <p>○部活動については本校の独自性を全面に打ち出す結果となっている。生徒の部活動加入率も100%に近い。本年度は全国大会優勝者の他、県大会上位入賞や文化系部活動も全国大会に出場するなど、一昨年を超える成果が出ている。</p> <p>▲本年度は感染症の影響を受けずに生徒会活動を実施したが、途切れてしまった伝統を取り戻すまでには至らなかった。学校行事の見直しの必要性も感じた。</p> | <p>総合評価</p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> |
| <p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒に対する指導」を周知し家庭の理解のもと、さらなる生徒の規範意識の向上を進めたい。ホームページ上で情報を公開（校則、いじめ対策方針、生徒指導部作成の通信等）するなどして、保護者に学校の活動の周知理解を促す必要がある。本校の実態に応じた指導を進めることで、高校生活での明確な目標をもたせ、前向きな高校生活となるように援助していきたい。 ・学校生活に前向きに取り組めない生徒に対し、スクールカウンセラーなどの専門機関を有効活用したい。しかし、現状ではスクールカウンセラーは月に1回の派遣となっており不十分な部分もあるため職員研修を充実させ情報共有を促進させることにより、組織として事案に対処していきたい。 ・生徒の自主的な活動を活発化させるため、計画的に物事を実施できるような準備を行わなければならない。従来まで生徒の主体的な活動としてできていたことなので、今一度教員からの働きかけを増やし、学校行事を実施していくこととする。 | | |

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月18日

| |
|--|
| <p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土岐商業高校の生徒の地域でのマナーについては問題ないと思われる。しかし、保護者の送迎に関わる苦情もある。 ・吹奏楽部の定期演奏会に出向いたが、大変すばらしい発表で感動した。 ・どの行事でも労力がかかる。ただ、コロナ禍を経験した今、慣例としてやってきたことを変えるチャンスではないだろうか。学校をPRするためにも、生徒の若い力(考え方)を利用して新たなことにチャレンジしてください。PCやスマホを使った取り組みをしてみたらどうか。 ・身分証明証がカード形式となり、学校生活に関わる情報が確認しづらくなっている。ホームページ上には公開されているようだが、公開されていること自体を知らない生徒、保護者も多いのではないだろうか。 |
|--|

I 自己評価

| | | | |
|--------------------|---|--|--|
| <p>1 学校教育目標</p> | <p>(1) 職員と生徒が一体となり、あらゆる教育活動を通して、質実剛健・明朗闊達な校風を樹立します。 (2) 望ましい職業観を育成するとともに、誠実・勤勉で人間性豊かな産業人を育成します。 (3) 普通教育と商業に関する専門教育との調和のとれた指導を通して、生涯にわたって、創意をはたらかせ、進歩向上を図るための基礎的能力を育成します。</p> | | |
| <p>2 スクール・ポリシー</p> | <p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「豊かな心をもつ土岐商生」 自分で考え行動しながら心にゆとりと自信をもち、他人を思いやり友人を大切に、人間関係を充実させる生徒 ・「志が高い土岐商生」 学習、特別活動、進路選択において勤勉さと逞しさをもって失敗を恐れず挑戦し、自らが決めた目標を貫ける生徒 ・「地域とのつながりを大切にする土岐商生」 商業に関する専門性を活かしながら地域とつながり、卒業後は即戦力のある人財として、地元や社会への貢献をめざす生徒 | <p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本となる学力の定着を図るための普通教育とICTを活用しながらコミュニケーション能力と発信力を育成する専門教育 ・高度な資格取得を目標とし、学科・コースを自ら選択した上で取り組む専門的な学習 ・地域を含む外部との連携で、実社会の課題を知り、できることを考え実行していく機会を体験する「探究的な学習」 | <p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の校風と商業に関する専門的な学習や部活動に関心があり学びたい生徒 ・高校生活にしっかりとした目標を持ち、積極的に取り組み、挑戦したいという意欲のある生徒 ・地域と関わる機会があれば自ら進んで参加し、校内では共同・協働の機会である部活動や生徒会活動を通じて、より良い社会の礎となるために考えて行動できる生徒 |

| | | |
|---|---|--|
| <p>3 評価する領域・分野</p> | <p>◇進路指導部 [進路学習、就職指導、進学指導、キャリア教育]</p> | |
| <p>4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「進路情報を提供し、生徒の可能性を引き出そうとしている」の肯定的な回答は、生徒80.2% 保護者77.6%であった。保護者の「よくあてはまる」の回答が昨年度より増加しており、育友会総会における講演会の対面での実施など、提供の場が回復したことなども要因と考えられる。 ・「生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスをしている」について『わからない』と答えた保護者が30.2%であった。進路結果に注目が集まりがちだが、学年や他の分掌とも連携して、現状・動向などの情報提供に努めたい。 | |
| <p>5 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p> | <p>◇主体的に進路を選択し実現することができる能力や態度の育成 「自立・自律」 「向上心」</p> | |
| <p>6 重点目標を達成するための校内における組織体制</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアガイダンス等進路行事の円滑な運営 ・学年と分掌の協力体制、講師や担当者と丁寧な打ち合わせ ・基礎力の育成、試験に必要な学力の向上 ・小テストや外部模試等の計画・実施。学年や教科との情報共有 | |
| <p>7 目標の達成に必要な具体的な取組</p> | <p>8 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p> | |
| <p>(1) 望ましい勤労観・職業観の育成 (2) 学年に応じたキャリア教育の推進 主体的な進路選択に向けた情報提供とガイ</p> | <p>(1) インターンシップの自己評価・企業アンケートにより、達成度を確認する。 (2) 進路ノートを活用状況やキャリアパスポート</p> | |

| | | |
|---|---|--------------|
| <p>ダンスの機能を充実 (3) 「行きたい大学」「就きたい職業」への進路の実現</p> | <p>の内容から、主体的に取り組めたか評価。 大学見学会や就職ガイダンスへの参加率100%を目指す。 (3) SHRで実施する入社試験対策の小テストの正答率7割を超えるよう指導。 希望進路達成率100%を目指す。</p> | |
| <p>9 取組状況・実践内容等</p> | <p>10 評価視点</p> | <p>11 評価</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生と語る会、キャリアガイダンス、マナー講座、インターンシップの実施 ・多治見法人会や厚生労働省委託事業による就職ガイダンスの実施 ・小テスト、小論文模試、外部模試等の実施と活用 | <p>①生徒の感想から、自らの進路について考えるよい機会となったことが窺えた。 ②生徒にとって最適なタイミングで実施できた。生徒は自らの課題を見つけ改善して、自信をもって就職試験に臨むことができた。 ③3年生の小テスト得点率7割は、ほぼ達成することができた。また、模試を通して小論文試験や志望理由書を書き上げる力を育んだ。</p> | |
| <p>12 成果・課題</p> | <p>○小テストと天声人語書き写しの継続的な実施は生徒の基礎学力の定着につながっていると考える。大学や企業の方からも、評価の声が届いている。 ○公募制推薦等を受験し、希望する大学をあきらめることなく挑戦する生徒が増えてきている。国公立大学をはじめとする難関大学へチャレンジした3年生の声を下級生に届け、意識の高揚を図っていききたい。 ▲外部模試により生徒の到達度を図り、生徒の現状と学習の定着について、掌握することはできたが、進路選択の視野を広げ、チャレンジを促せるよう活用することが十分でなかった。模試の目的を再検討し、学習・進路両面で結果を意識し、次の活動へとつなげられるようサポートしたい</p> | |
| <p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三者懇談会や育友会総会など保護者と教師が対面でお話できる機会を十分に生かし、保護者のニーズを理解し、情報提供に努めたい。 ・インターンシップの準備は、経済の状況などから今年も困難を極めたが、ご協力いただいた地元企業の皆様のお陰もあり、無事実施することができそうです。全職員の協力のもと、年間を通しての取り組みを継続したい。 | | |

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月18日

| |
|---|
| <p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響もあり、様々な活動の空白期間を経て、再び伝統行事を継続していくことが非常に困難になっている。前例に倣い継続をするのではなく、今こそ時代に即した行事に変えるチャンスでもあると考える。 ・AIなどが普及してきているが、操作をし、使いこなすのはあくまで人である。そのためにも、生徒にはしっかり勉強してほしい。 ・本校卒の子どもが就職先で、「さすが土岐商生だ」と仕事ぶりをほめていただいき、誇らしかったそうである。今後も企業での活躍を期待したい。 |
|---|

I 自己評価

| | | | |
|--------------------|---|--|--|
| <p>1 学校教育目標</p> | <p>(1) 職員と生徒が一体となり、あらゆる教育活動を通して、質実剛健・明朗闊達な校風を樹立します。 (2) 望ましい職業観を育成するとともに、誠実・勤勉で人間性豊かな産業人を育成します。 (3) 普通教育と商業に関する専門教育との調和のとれた指導を通して、生涯にわたって、創意をはたらかせ、進歩向上を図るための基礎的能力を育成します。</p> | | |
| <p>2 スクール・ポリシー</p> | <p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「豊かな心をもつ土岐商生」 自分で考え行動しながら心にゆとりと自信をもち、他人を思いやり友人を大切に、人間関係を充実させる生徒 ・「志が高い土岐商生」 学習、特別活動、進路選択において勤勉さと逞しさをもって失敗を恐れず挑戦し、自らが決めた目標を貫ける生徒 ・「地域とのつながりを大切にする土岐商生」 商業に関する専門性を活かしながら地域とつながり、卒業後は即戦力のある人財として、地元や社会への貢献をめざす生徒 | <p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本となる学力の定着を図るための普通教育とICTを活用しながらコミュニケーション能力と発信力を育成する専門教育 ・高度な資格取得を目標とし、学科・コースを自ら選択した上で取り組む専門的な学習 ・地域を含む外部との連携で、実社会の課題を知り、できることを考え実行していく機会を体験する「探究的な学習」 | <p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の校風と商業に関する専門的な学習や部活動に関心があり学びたい生徒 ・高校生活にしっかりとした目標を持ち、積極的に取り組み、挑戦したいという意欲のある生徒 ・地域と関わる機会があれば自ら進んで参加し、校内では共同・協働の機会である部活動や生徒会活動を通じて、より良い社会の礎となるために考えて行動できる生徒 |

| | |
|---------------------------------------|--|
| <p>3 評価する領域・分野</p> | <p>◇商業部【商業教育、検定対策、地域連携】</p> |
| <p>4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p> | <p>【生徒の資格取得のための指導がきめ細かく行われている】 肯定的な回答が生徒80.3%、保護者77.7% 一定の信頼はあるが、生徒に関しては昨年度よりも5%ほど減少。 今一度、資格取得のための指導体制を見直したい 【学校では、ふるさとを大切に、ふるさとに貢献できる人材の育成が積極的に行われている】 肯定的な回答が生徒76.7%、保護者53.9% 保護者に関しては同様のアンケートで“わからない”が過半数を占めており、他の分掌と連動した発信の見直し</p> |
| <p>5 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p> | <p>◇基礎基本の力の定着 ◇検定試験合格に向けての取り組みの充実と指導者の育成 ◇地域連携の推進と指導内容の充実</p> |
| <p>6 重点目標を達成するための校内における組織体制</p> | <p>◇基礎基本の力の定着 ・授業外での個々の能力に応じたアフターケア ・科目担当者間の情報共有 ◇検定試験合格に向けての取り組みの充実と指導者の育成 ・各科目責任者主導のもと、進捗状況の確認と支援 ・専門学校からの講師を招聘した講座の立ち上げ ◇地域連携の推進と指導内容の充実</p> |

| | | | |
|---|--|---|---|
| | | ・地域資源を活かした教育実践と、SNSを活用した情報発信の推進 | |
| 7 目標の達成に必要な具体的な取組 | | 8 達成度の判断・判定基準あるいは指標 | |
| (1) 資格取得における環境の整備 ・教科担当者間での情報共有 ・1年生日商簿記3級合格への環境整備 (2) 地域連携の推進 ・持続可能な学びの環境整備 ・指導者の育成 | | (1) 検定試験の合格率 ・SAHの導入における日商簿記3級の昨年度以上の合格率 ・各コースの高度資格取得の取り組みと成果 (2) 地域連携 ・各学科における特色ある取り組みと成果。 | |
| 9 取組状況・実践内容等 | | 10 評価視点 | 11 評価 |
| (1) SAH 昨年度の改善から継続実施しているが、その基準に達していない生徒が多い。到達目標や取り組み内容について検討中 (2) 各学科、科目「課題研究」で実践的な地域連携を進めることができた | | ①商業教育 ②検定試験 ③地域連携 | A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D |
| 12 成果課題 | ○商業教育の充実 ・商業科主催での縦割り集会や講演会を実施 ・夏の中学生1日体験入学で生徒主体での運営を実施 ・高度資格取得支援として、専門学校から講師の招聘 ・昨年度よりもアウトプットする場面を多く設定し、一定の評価を得た ○高度資格取得 ・税理士試験「簿記論」で1名の合格者を輩出 ・基本情報技術者試験など、昨年度に引き続き多数の合格者を輩出 ○地域連携 ・各学科で実践的な取り組みを实践 ・生徒研究発表大会において、2年連続で東海地区生徒商業研究発表大会出場をするなど、優秀な成績を収めた ▲SAHの取り組み ・昨年度合格実績から計画の見直しと改善を実施 ・検定日や簿記対策週間など、合格のための仕組みづくりに対する効果が薄い ・コースによっては、到達目標の見直しなど検討している ▲資格取得のための指導体制を見直し ・指導者の育成と、指導内容の平準化 ・資格取得のための体制の見直し | | 総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D |
| 13 | 来年度に向けての改善方策案 ・SAHについて、取り組み内容と体制の見直し →指導内容の平準化と、体制の再検討 学科によっては、単位数に対する到達目標の再検討 ・商業科としての取り組み内容の発信の見直し →コンテンツを増やすのではなく、内容を深化させ、他の分掌と絡めた情報発信の推進 | | |

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月18日

【意見・要望・評価等】

・地域連携

中間報告の時点から、それぞれが形になっており、魅力あるコンテンツに成長している。大学や専門学校で実践するような学びが、高校で実現されていることに驚きを感じる。継続して、発展的に学んでほしい。

・学科・コースの学び

各学科ともに、特色のある取り組みをしている。日商簿記1級やアプリケーション開発など、社会の即戦力を育成する内容となっていた。特に情報に関しては、ICTが当たり前になってきた現代においては必須である。引き続き、実践的な教育を推進していただきたい。